

著者は人気番組元ディレクター

第15回『このミス』大賞 **< 隠し玉 >** 作品スマホを落としたただけなのに 発売2ヶ月で**10万部突破**

ファッション雑誌販売部数トップシェア(※)の株式会社宝島社(本社:東京都千代田区 代表取締役:蓮見清一)が、2017年4月6日に『このミステリーがすごい!』大賞シリーズから発売した**宝島社文庫『スマホを落としたただけなのに』**が10万部を突破しました。新人作家のデビュー作品が発売から2ヶ月で10万部を突破するのは異例の売れ行きです。

本書は、宝島社が主催するミステリー&エンターテインメントの新人賞、第15回『このミステリーがすごい!』大賞への応募作品の中から「隠し玉」シリーズとして刊行しました。「隠し玉」シリーズとは、受賞には及ばなかったものの、大きく改稿することでベストセラーになる可能性を秘めているものを発掘し、刊行しているシリーズです。第1回応募作品からは『そのケータイはXXで』(上甲宣之)が刊行され、30万部を突破し、映画化もされました。その後も『死亡フラグがたちました』『もののけ本所深川事件帖 オサキ江戸へ』などのヒット作品を刊行、第10回応募作品からは『珈琲店タレーランの事件簿』(岡崎琢磨)が、シリーズ累計227万部を突破しベストセラーとなるなど、人気作を世に送り出してきました。

本作は主人公・麻美の彼氏が落としたスマートフォンを“連続殺人犯で狡猾なハッカー”である男に拾われたことをきっかけに犯人に気に入られてしまった麻美が、身近なSNSやインターネットで監視され、追い詰められていくミステリー作品です。『このミス』大賞の選評では「スマホを落とすという誰にでもありそうな日常の災難を、とんでもない災厄につなげていく過程が面白い。」(茶木則雄氏)などの評価を得ており、これまでに**森永卓郎さんや書店員さんによる書評などでご好評いただいているほか、日本国内に向けて情報セキュリティに対する取り組みや注意喚起等の情報を発信している内閣サイバーセキュリティセンターのSNSでも紹介されました。**

著者の志駕晃氏は現在、ニッポン放送のエンターテインメント開発局長として勤務しています。これまでに「オールナイトニッポン」など様々なラジオ番組を作ってきた、元ディレクターでもあります。

『このミステリーがすごい!』大賞は、これまでに第153回直木賞受賞の東山彰良氏や、第69回日本推理作家協会賞受賞の柚月裕子氏、累計1000万部突破の『チーム・バチスタの栄光』シリーズの海堂尊氏などの作家を輩出してきました。宝島社ではこれからも、新しい作家・作品を発掘・育成し、業界の活性化に寄与していきたいと思えます。

※日本ABC協会雑誌発行社レポート(2016年7~12月)より

著者は「ウッチャンナンチャンのオールナイトニッポン」や「中居正広のSome girl' SMAP」などの人気ラジオ番組を手掛けた元ディレクター!



志駕晃(しが・あきら)

1963年生まれ。神奈川県横浜市在住。明治大学商学部卒業。ニッポン放送入社後、様々なラジオ番組制作に関わる。担当番組は「ウッチャンナンチャンのオールナイトニッポン」「ドリアン助川の正義のラジオ ジャンベルジャン」「中居正広のSome girl' SMAP」など多数。第15回『このミステリーがすごい!』大賞「隠し玉」として『スマホを落としたただけなのに』でデビュー。

昔から酔っ払って携帯をよく落としていて、「スマホだったらもっと恐ろしいことになるだろう」という所から発想を得ました。ストーリーの中でランサムウェア、フィッシング詐欺、SNSの成りすましなどにも触れているので、現在のネット社会に警鐘を鳴らせればと思っています。

【『スマホを落としたただけなのに』あらすじ】

麻美の彼氏の富田がタクシーの中でスマホを落とした。拾い主の男はスマホを返却するが、男の正体は狡猾なハッカーだった…。麻美を気に入った男は、麻美の人間関係を監視し始める。セキュリティを丸裸にされた富田のスマホは、身近なSNSを介して麻美を陥れる凶器へと変わっていく。

宝島社文庫
『スマホを落としたただけなのに』
■発売日:2017年4月6日
■定価:本体650円+税